

みんなのために

西郷菊次郎

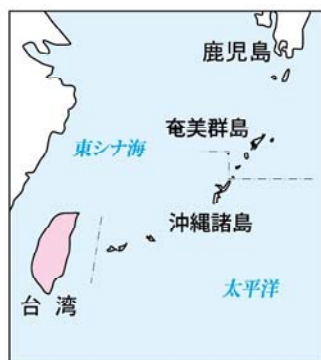
「西郷さん」と聞くと、みなさんは「西郷隆盛」のことだと考
えるでしょう。しかし、ほとんどの人が、その子どもである

「西郷菊次郎」のことだと答えるところがあります。どこだ

と思いますか。

それは、台湾です。

なぜ、菊次郎は、日本だけではなく、台湾でも有名なので
しょうか。



【台湾の位置】



（写真提供）西郷隆文氏

【西郷菊次郎】

菊次郎は、一八六一年（文久元年）、西郷隆盛と愛かなの子どもとして奄美大島に生まれました。一八七二年（明治五年）、菊次郎は、十二さいの若さでアメリカに留学しました。そこで、英語やアメリカの優れたところを学ぼうと、一生けん命に勉強にはげみました。その後、帰国した菊次郎は、一八七七年（明治十年）、父西郷隆盛に従って、※西南戦争に参加し、右足を失ってしまいました。戦争が終わった後、菊次郎は、こうした困難にも負けず、さらに勉強をしたいと思ひ、アメリカに留学しました。そこで、たくさんの本を読み、熱心に勉強をしたのです。

【関連年表】

- 一八六一年 誕生
- 一八七二年 アメリカに留学
- 一八七七年 西南戦争がおきる。
- 一八九四年 日清戦争がおき、台湾が日本の領土となる。
- 一八九七年 台湾の宜蘭庁長になる。
- 一九〇四年 京都市長になる。
- 一九二八年 死去

一八九七年（明治三十年）のことです。菊次郎は、これま
での努力が認められ、台湾の宜蘭という町の※庁長になり
ました。

ところが、庁長になった菊次郎は、すぐに困り果ててしま
いました。なぜかというと、宜蘭には大きな川があり、毎年、
大雨や台風が来るたびにはんらんして、人々を苦しめていた
からです。

菊次郎は、じつと考えました。

「よし。※堤防をつくろう。わたしたち日本人と宜蘭の人々
が協力して堤防をつくれれば、宜蘭はきっと今よりも素晴ら

※西南戦争

一八七七年、西郷隆盛を中心に、明治政府に不満をもつ鹿児島（士族（江戸時代の武士））などがおこした。

※庁長

日本の県知事のようなもの



※堤防

川の水があふれでるのを防ぐもの

しい町になる。宜蘭の人々の立場たちばになつて考え、行動こうどうするこ
とが大事だいじだ。必ずかならやりとげなければならぬ。」

菊次郎は、宜蘭川に堤防をつくることを決心けっしんしました。長
さが、約やく一七〇〇メートルにもなる堤防をつくる大工事こうじとな
りました。菊次郎きくじろうたち日本人と宜蘭の人たちの協力どりよくと努力
によつて、長い年月をかけて堤防が出来上できがりしました。

この堤防が出来上できがったおかげで、町の人たちは、こう水
に苦しめられることがなくなりました。

菊次郎きくじろうが行おこなったこの工事がきつかけで、宜蘭の人たちは、
菊次郎たち日本人のことを、

【考えてみよう】

どうして菊次郎は堤防をつくろうと思つたの
だろうか。



「自分たちのことを考えてくれる人たちだ。」

と思うようになりました。

その後も、菊次郎は宜蘭の人たちのために、道路をよくする工事を計画したり、日本から先生を呼び、幼稚園をつくるなどして教育に力を入れたりと、一生けん命がんばりました。そのため、宜蘭の町は、みんなが安心して暮らせるようになっていきました。

菊次郎のつくった堤防は、今でも「西郷堤防」と、宜蘭の人たちから呼ばれています。そして、「西郷堤防」の近くには、菊次郎のことをほめたたえる石ひがつくられ、今でも残

※石ひ

石に文字をきざんで建てたもの

【菊次郎をたたえた石ひ】



(写真提供 西郷隆文氏)

っています。菊次郎きくじろうが日本に帰かえるときには、大ぜいの人たちが集あつまり、なみだを流ながして感謝かんしゃしたそうです。

日本に帰かえった菊次郎は、一九〇四年（明治三十七年）、京都市長すいとうになりました。ここでも水道や道路をつくるなど、京都の人たちの生活せいかつが少しでもよくなるように努力なつりしました。

一生をとおして「みんなのために」という思いで、努力してきた菊次郎。その生き方は、これからも多くの人たちの

※共感きょうかんを呼よぶことでしよう。

【考えてみよう】

なぜ、宜蘭の人たちは、なみだを流ながしたのだろうか。

※共感

他たの人と同じおなような考えかんがになること。